

平成21年度科学研究費補助金実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号 3 2 6 0 4      2. 研究機関名 大妻女子大学
3. 研究種目名 若手研究(B)      4. 研究期間 平成19年度～平成21年度
5. 課題番号 1 9 7 0 0 5 8 0
6. 研究課題名 外来の食文化の受容と消長について－東アジアにみるポルトガル由来の伝統菓子

7. 研究代表者

| 研究者番号           | 研究代表者名                  | 所属部局名 | 職名 |
|-----------------|-------------------------|-------|----|
| 6 0 3 4 8 4 8 0 | フリガナ ウツノミヤ ユカ<br>宇都宮 由佳 | 家政学部  | 助教 |

8. 研究分担者(所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。)

| 研究者番号 | 研究分担者名 | 所属研究機関名・部局名 | 職名 |
|-------|--------|-------------|----|
|       | フリガナ   |             |    |
|       | フリガナ   |             |    |
|       | フリガナ   |             |    |
|       | フリガナ   |             |    |
|       | フリガナ   |             |    |

9. 研究実績の概要

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600字～800字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

平成21年度は、これまで作成した比較表と文献・資料の整備、及びタイ、インド(ゴア)で現地調査を実施した。

1.ポルトガル由来菓子の比較表の加筆・修正  
 現存するポルトガル由来菓子について、地域別(日本、タイ、インド、マカオ、マラッカ)に、菓子の名称、伝播した場所・時期、用いられ方(クリスマス)などの各要素に分類し、これまで作成した比較表に加筆・修正をした。特に、ポルトガル菓子の原型をとどめた Fios de ovos(鶏卵素麺)について、日本、タイ、インドでの製法の違い、地域内での伝播の仕方など詳細に比較分析をした。

2.現地調査  
 1)タイ調査:2009年8月6日-8月19日 チュソングリチーン村(Santi SUWANNASARI 氏)地区に訪問し、パオンデーロー(カステラ)が伝播した菓子の製法について、面接聞き取りおよび観察調査を実施した。さらに、クリスチャンの家庭で、クリスマス伝統菓子について、聞き取り調査をした。  
 2)インド調査:2009年12月21日～27日 大航海時代ポルトガルの植民地であったゴアで、クリスマス伝統菓子について、文献収集およびポルトガル系クリスチャンの家庭(Maria Alig & Jose Jacome Saldanha 夫妻)で、観察・ヒヤリング調査を実施した。他の地域に比べ、伝播した菓子の種類が多いが、伝播の仕方がポルトガル系クリスチャンの家庭での母から娘への口伝であるため、限られた空間での浸透であった。また、Fios de ovos 由来の菓子の名称が、ポルトガル最古の料理書「Arte Decoziha」での Letria de ovos(卵の細い麺)と同じ「Letria」であり、古い時代に伝播したことが推察された。  
 東アジアにおけるポルトガル由来の伝統菓子について、各地域での受容および現地の食文化との融合、発展または消滅の要因について、社会的背景を含め分析・検討した。

10. キーワード

- |           |          |           |
|-----------|----------|-----------|
| (1) 食文化   | (2) 伝統菓子 | (3) ポルトガル |
| (4) 大航海時代 | (5) 東アジア | (6) 日本    |
| (7) インド   | (8) タイ   |           |

(裏面に続く)